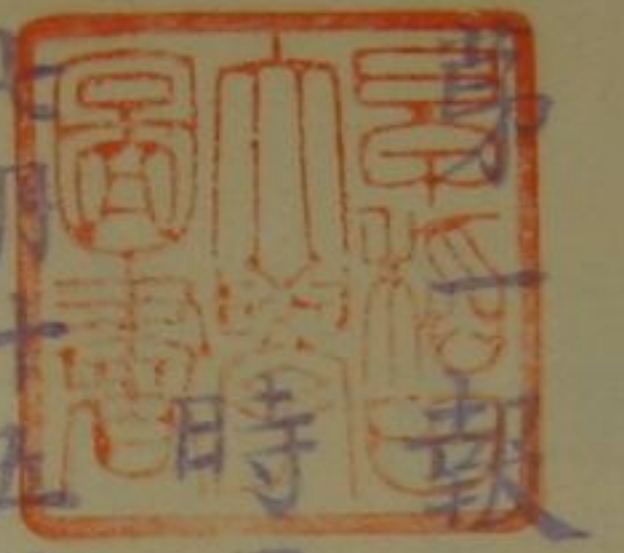


七月十六日「サンヂロ氏ハコールヨリ
 一人モ不残戮殺スルト意氣込居申
 今更ナガラ西軍ノ卑劣大ニ及軍ノ骨髄
 十六名其他負傷二十余名ヲ生シ退却セリ
 撃テ始メタリ及軍ハ不意ノ事トテ即死
 ジ進軍セリ既ニ全地ニ近ク頃西軍ハ一奔射
 陣ノ西軍ハ白旗ヲ掲ケタリ故ニ及軍勢ニ乘
 七月十五日午后「サンベトロマカ」之外國人共同墓地滞
 澤大尉殿



澤大尉殿

富岡卯七郎

ハエールニ於テ

明治三十一年七月二十一日

極秘 第一

參謀總長 權第 八 號

大正十一年 寄 贈月

114
 A 798
 23

265
 5-24 止



ニ貴下ノ来テレヌニ失望ノ体ナリシ直チニ
貴意ヲ傳ヘタリ且ツ貴下ニ面會スル事延
々ナレバ自ラ往訪スル方得策ナラント忠
言シ艦長宛テ紹介肩ヲ典ヘ申ハ
全夜一泊

七月十七日 午前十時「サンダコ」氏ヨリ紹介書状ヲ受
取リ「コール」へ渡リ特別通行券ヲ受取午後
一時發「マクツベキ」へ向ヘリ途中「ラニアヤケ」ニテ
大尉「ホアンアレバロ」氏出遇セリ全氏ハ「バサイ」本
營ノ傳令トシテ「コール」へノ歸途ナリ全氏ヨ
リ「マクツベキ」ハ危険ナル故「バサイ」本營へ行ケト
ノ事ナリシ故ニ道ヲ「マリバイ」ヨリ折レ「バサイ」
ニ至レリ頃日午前以來ノ激戦ノ後トテ何レモ

疲レ居レリ且ツ全地方向ノ主將「ベラブル」ガタマリ
アノ「エル」氏ニ面會ラ不得全地駐在ノ士官ノ咄ニ
依レバ今朝「マクツベキ」西軍ノ土堤二個畧取西軍
ノ砲壘旧火藥庫「即チ」マラテ町外レノ目下西軍砲
台ヲ去ル二百メートル迄接近セシモ西軍ノ烈シ
キ射撃ヲ受テ空敷ク長却セリ之レモ及軍
嚮ト大ナル相違ニテ全方面ニハ旧式ノ口込大砲
三門元込大砲一門アルノミニテ到底後方ヨリ庇
援スルト云フ程ハ勢力無之茲為ニ以上申上
如ク退却セリ其後即死十三名負傷者三十余名ヲ
出セリト為ニ暫時休戦スル様子ナリトノ事ナリ
シ時ハ既ニ午後三時過ギ全地ヲ辞シ道ヲ「クリク
川」ニ取リ「サンベトル」マカテニ出デタリ全地方モ同様

レヨリヨレクハ赴ケリ午後六時半ヨレク安着全
地一泊セリ全日ヨマリバク海岸ノコタンボト申一小村
落三百名斗ノ米軍野營シ居ルヲ見受ケ
タリ全地方ノ咄ハ十六日午後未レリト
七月十八日午前八時ヨレクヨリ一小舸ヲ備ヒヨマリキナ
ニ向ヘリ途中サントラン水源地器械場ノ下ヲ通過
セリ暫時停舟上陸全場ヲ一見セリ全処ノ器械
ハ何レモ無事一ツノ破損モ無之候
當場千八百八十年製ノ原動器械二臺ハ多年
使用ノ結果多少異状アル由ニテ其兩側新製
ノ二臺ノ器械据付ケ中ニ有之也
尤モ全処去ル六月廿七日ヨリ及軍ノ攻撃ノ始メ
廿八廿九日ト攻撃ヲ継続シ三十日遂ニ今日午

前西軍ハ西北方サントアンデルモンテニ通ズル一
道ニ退却ヲ始メタリ遂ニ今日午後及軍ノ畧
取スル処トナリ既ニ六月廿七日ヨリハ器械ノ運轉中
止レタリト目下全地ニハラグナノ大尉シモニリ
ラ氏百三十名ノ及軍ヲ統轄駐在致居候且
全処一等機関師アルトリステファン氏滞在シ居レ
リ目下弗々器械ノ修覆乃至ハ手入レ等ヲ始メ
居レリ全地ハ極無事ニ畧取セシ事故何時
テモ揚水ニ後事スル事ヲ得ルトノコトナリ午
前十一時頃ヨリキナ着家族ヲ見舞ヘリ
七月十九日午前全地駐在ノモンテ子グル氏ヲ訪問セリ
全氏ハ目下大佐相当官ニテ全地ノグベルナドルニ
は坐候

全氏ハ以前ヨリノ知人ニテ一時「コンバニア」ヘミラル
ノ書記タリシ時々ハ殊更交際モセシ「アリス」
第一面及軍蜂起ノ際「カビラ」方面陥落スト
聞キ一夜「ドンド」田川氏ヲ来訪シタル「アリス」
以前ヨリ全氏ハ北方「ブラカン」方面ノ及軍ニ投ジ
居リタリ平生小生等ハ「アント」ニラトシ「呼ナシ」居
リシ故実ニ奇遇ニハ驚入致以上ル如クニ「殊」
殊ノ外厚遇セラレ自室ニ誘ハレ談話教時貴
下ニモ是非面談シタキ故若シ時「期」ヲ得バ知ラシ
呉レト「ナリシ」且ツ全氏ハ廿二日頃「バ
コール」ニ来ルト「ナリシ」全地方ハ銃器更ニ無
之致「ブカン」ニハ多教ノ及軍有之之レトテ
モ銃器及ビ糧食モ十分ナラズト「ナリシ」

三十日ノ戦ハ西軍ノ退却方面「アリス」及軍ハ銃
彈丸盡キタル処ヘ西軍ノ退却攻撃ヲ受ケ
一時總潰レトナリ「マリキナ」方面ヘ退却セリ其
際「マリキナ」モ「婦女子」ハ右通知ヲ得テ一時「サ
ンマテラ」附近「マデ」逃延ビタリト併シ西軍ハ元
リ撃退ノ意ニ無之退却ノ「コソ」何事モナラ
リシト右「其地」エル「コメル」ハ及軍二百名モ
ンテ「子グル」等斃セリト記載セシ「ナラン」右戦
兩軍共僅ニ救名ノ死者「アリシ」ト
七月二十日午前八時一小艇「サンペトル」マカテ「向ヘリ」全
十一時過ギ全地着兵營訪問全地駐在ノ「テニエン」テ
ヘミラル「ビラ」ニハ面會セズ其時正午ナリシテ
以テ中食セヨト「ナリシ」カ一小艇中用意ノ中食

セシテ以テ直ニ一人ノ業内ヲ請ヒタリ全兵營ニハ
大ニ厚遇ヲ受ケ乗馬ノ方宜敷ヤトノヲナリシ
ガ却テ徒歩ノ方氣随トテ案内ニ導カレ田圃
ノ中ヲ過ギ及軍ノ土堤等一見コクリクリラ打過
ギ再ビコバサイニ看セリ全方面ハ十八十九日ト
三日間更ニ應戦セザリシト目下兩期ノトトナ
至ル処泥濘膝ヲ没シテ隨分及軍モ困難ナ
ルヲナラン併シサンペトルマカテ方面ハ定テ知
如キ丘陵ノ起伏致居茲処ニテ隨分面白キ戦
アルナラン西軍ハ外國人墓地ニ四五百名位其他全
地ノ右方ハシク河岸附近ニ六百名位居テ全方面
ニ大砲ハ有セズト開戦スルヤサンタアナ及ビマン
コル附近ノ大砲ヲ祭砲スルトノヲナリシ及留ル

サンペトルマカテ方面ニハ四千名「バサク」方面ニハ二千名
余西兵營ノ糧食係ノ咄ニ依レバ「サンペトルマカテ」
ハ日ニ五十俵「バサク」三十七俵乃至三十五俵位死ナリ
ト右糧食救ニテモ兵員ハ大差ナキモノト考ヘ
ラレ茲總テ及軍ハ規律ト云フコトハナク各自斬
下ニゴロトト卧居茲士官ニ尋ヌルニ兵氣敵慨心
ハ充分ナル由ニ生壁茲全方面ハ大砲ノ來着セシ
上攻撃ヲ始ムル棟申居茲米國軍ハ「バサク」
海岸附近マデ六七百名隊ヲ組ミ行軍致居茲
途中赤ノ小旗ニテ信早リ等練習ヲ為シ居レ
リ「マツベキ」附近ニテ知ラズ「米兵二名余西軍
ノ土堤ニ近ツキ西軍兵ノ為メニ捕ハレタリト
米國軍ノ上陸シ居ル処ハ「マリバリ」ノ海岸字ヲ示

ト申処、一テ大廣畑地ニテ野營致居、海邊ニ相
應ノ深水ナル故子、は壁致或ハ一部ハ頻ニ調練
ヲ爲シ居レリ具附近ハ小店致多張リ居レリ土人
ハ五千名モ米軍アル様申居、小生ノ目ニ多
分一千名内外ナリシ様テ野營ニ由壁致別段野
砲乃至山砲等ハ見受不申、午後五時過ギ
無事ハコルルへ帰營セリ
大本營及ビサンゲコ氏等外交上ノ事ナゾハ本營副
官先生達ニ何事モ秘密ニレアルモノ故米軍ノ上
陸シ居ルナゾモ知ヌ副官先生モ有之、サンゲ
コ氏ノ話ニテハ副官先生達ハ多少英語ヲ解スル故
外國新聞記者ナゾニウカ、秘密モ秘密ト知ラズ
話ス、アリテ一大事故何事モ非常ニ秘密ニシ

アル故随分迂濶ナルモノナリトノ話モアリシ
今夜副官中尉「エンヘニヨフロナ」氏ハ他ノ副官三名「
クロス島へ派遣セラル、故ノ話モ聞及ビ申致、フ
氏ハ「子グロス島ノ人ナリ」
米國兵ノ捕ハレタル「ハ事、實ナル由噂シ居レリ大
尉「ホアンアレバロ」氏ハ本日再ビ戦地ニ向ヘリ途中行
違ヒ面會セズ其他變リタル「ナシ」
七月廿一日午前「カビテ」政廳ニ「サンゲコ」氏ヲ訪問セシモ不在
遂ニ意ヲ果サズ空シク帰營セリ
通辯人「アントニ」ラ「エスカ」ミリア「副官」「フロナ」氏「秋津」
州艦訪問「バタン」ガス「グレ」ミリア「ゴシ」リヨ「氏」ヲ「秋津」
艦ニテ「香港」マデ「便乗」願「出候」得共不許トノ噂有之
候、其際小蒸汽ニテ本艦へ行キタリトノ「ナリシ」定

テ艦長モ迷惑ナリシトナラシム
カビテ政廳ニテ副官「ビセンラツリビ」ヨ氏面会セリ
全氏ハ今回「ロンブロン」征討ニ附従ニル由ナリシガ出衆
ハ決セズトノ「ナリシ」
以上不取敢ニ報申上テ明日再ビ「カビテ」ヘ行キ「サンダ
ロ」氏ヲ訪問スル考ヘナリ小生ハ至テ無事送光
美間生休神被下度矣
米軍續着共合セラテ七千名斗兵員ニ達シタル
由当地ニテハ運送船名等更ニ相分リ不申困
リ居矣

極秘

第一種

本報権第ハの號一ニ

明治三十一年七月二十三日

第二報

「カビテ」ニ於テ

時澤大尉殿

富岡卯七郎

七月廿二日午前「カビテ」政廳ニ「サンダロ」氏ヲ訪問セリ不在
ナリシ故ニ同廳通辯間の子人以前在香港ノ「マルケ
」氏ニ面会「サンダロ」氏ノ住宅ヲ尋子午前九時
過ギ全氏住宅見当リ幸ニ在宅ナリシ本日乃至
明日ハ必ラズ貴下未ラルト「カビテ」政廳ニ
ニテ待受ケ居ル方都合宣敷トテ態々全氏ニ導
レ政廳ニ行キ小生ヲ政廳ニ紹介セラレ貴下ノ未ラル
、逗留マル「カビテ」決シタリ

目下當「カビテ」港頭ニハ過日捕獲セシ「ヲロンガボ」ニテ
「ゴンパニアヒリ」ビナ「蹄」五百噸「目下武装中」
「ドンフランシスコ」蹄「百二十噸」ロンブロン「通」ハ「兩日前生」
牛七十五頭搭載シ来レリト又「ダレニヨ」蹄「百噸内外」
等ノ三汽船碇泊シ居レリ
本日午后二時弥「ヘ」ラ「フリガダ」コリア「ノル」エゴ「デ」ジ「ラス」氏
「ギ」グ「ベル」ナ「ドル」ヘ「テ」ラ「ル」ガ「ビ」シ「ラン」エ「ミ」リ「ア」ノ「ル」エ「ゴ」デ「ジ」ラ「ス」氏
身「副官」ビ「セン」テ「ツリ」ビ「イ」ニ「ヨ」氏「中尉」其他少佐一人中尉
三名兵二百二十五名「卒」ビ「ド」ン「フ」ラ「ン」シ「ス」コ「蹄」及「ビ」コ「ブル」
サン「蹄」百噸内外「汽船」等「来」込「コ」ン「ブ」ロ「ン」港「向」ケ「出」
發セリ小生「中食」ハ「全」氏「等」ト「合」食セリ「出」發「際」
海山津「マ」デ「見」送レリ「コ」ン「パ」ニ「ア」ヒ「リ」ビ「ナ」蹄「ハ」頻「ニ」武「装」シ
居レリ「遂」ニ「貢」下「生」来「港」無「之」政「廳」ニ「テ」一「泊」セリ

西班牙艦隊ハ途中ヨリ引返シタリト事實ナルヤ
噂シ居レリ

七月廿三日 雨天 午前八時過ギ「サン」ダ「コ」氏「来」訪「ヲ」受「ケ」タ
リ「多」分「本」日「ハ」貴「下」来「港」セ「ラ」ル「ナ」ラ「ン」ト
瑞西國人二名「米軍」ノ「嫌疑」ニ「テ」捕「縛」サ「レ」タ「リ」ト「余」
ニ「モ」十「分」注「意」セ「ヨ」ト「コ」ン「ダ」コ「氏」ヨ「リ」忠「告」ヲ「受」ケ
タ「リ」午「前」ハ「何」事「モ」ナ「ク」打「過」ギ「中」食「後」「サン」ダ「コ」氏
訪「問」セ「リ」談「話」二「十」分「間」ニ「テ」歸「廳」セ「リ」降「雨」頻
ナ「リ」米「軍」ハ「救」多「ノ」病「者」運「搬」用「馬」車「ヲ」持「居」リ
今「夕」ハ「コ」ペ「ラ」ブ「エ」ン「カ」シ「ノ」氏「宅」ニ「テ」宴「会」有「之」矣「右」
米「軍」司「令」官「フ」ア「ン」デ「ル」ソ「ン」將「軍」ノ「誕」生「日」ナル「由」艦
隊「司」令「官」モ「臨」席「ス」ル「筈」小「生」モ「行」テ「ハ」如何「ト」ノ「リ」
「リ」シ「ガ」米「國」人「数」多「ノ」来「賓」故「見」合「セ」タ「リ

第一報ニ申上美通り去ル二十日「バラニヤケ」ニ於テ二門ノ
 大砲見受ケタリ右ハ「ヲロンガボヨリ」ヨリ回送シ来リタ
 ルモノニテ口径十四センチナル由右ハ「マクツベキ」ヘ回送目
 下ノ處右十四センチニ門ノ外新式ノ砲四門併セテ六門ノ
 優勢ナル砲ヲ据付ケ中多分未週ノ火曜日カ水曜日ヨ
 リ攻撃ヲ始ムルナラント即チ廿六廿七日頃ナラシ十四センチ
 ハ西班牙製ノ「ツリソント」申ス物ニ生堅美砲身ハ余リ長
 カラズ目下ノ所副官先生始メ當クベナルドル「エミリア」ノ
 氏夜々散歩ニ出掛ケ一向平氣至極氣樂ナル様見
 受ケラレ申美「エミリヨ」將軍ハ今日ノ処動カザル
 様子ニ生堅美

極秘 第一種

参謀 第九〇號ノ一二

第三報

明治三十一年七月二十五日

時澤大尉殿

富岡卯七郎

七月廿三日夜「ブエシカシ」ノ氏宅宴會ハ単ニ或ル一部ノ
 及徒ノ主領株多分「ブエシカシ」ノナラン米軍ノ慰勞
 會ヲ開キ米軍ノ歡心ヲ買フ考ニテ開キタルモノ
 ナリシモ秘書官連中ハ後日ノ關係ヲ懼レテ遂
 ニ今夜會食マシモノハ主人公「フエリ」ペ「ブエシカシ」
 「イシント」ル「サンダゴ」本官副官「フリライ」イン「パンテ」及軍
 三氏賓客米軍「ファンデル」ソン將軍今令息今副
 官大尉少壯政治家「ブラクス」氏トノ四名都合七名ノ

ミナリシト右ハ多人教會食スレバ具内多少ノ秘密乃
至ハ後日ノ質言等ヲ採ラルトノ憂ヒヨリ極メテ
質素ニ終リタリトハ「サンデゴ」ノ話ニ有之矣賓客ハ九
時半頃帰營其後ニ及徒盛ニ舞蹈セリト右「ブ
ラクス」氏ハ中、敏腕ナル政治家ナル由ニ秉リ及
ビ矣、及軍ハ多ク「サンタアナ」方面ニ総全カラ注ギテ
攻撃スルナラントノ「モ」聞込ニ申「當週間」前報申
上「マク」ベキ「攻撃」モ此兩天ニテハ多少延引相成ルヤ
ス不斗哉
昨日ハ誠ニ浪速艦ニテ不首尾ニテ折角風雨ヲ侵レ
貴下、面會セシトシテ果サス實ニ残念々々且ツ其
節不巳得越権且ツ鉄面皮ナリシモ金員拝借ノ件
不悪ハ許被下度矣浪速艦長ノ意見ハ尤モ

ナル次勇ナレハ小生ハ素ヨリ及徒ニモ無之實ニ及軍ト
レテ取扱ハレ残念々々今ノ后ハ浪速艦ノ手ヲ經ズ
通信ノ道ヲ相開キ可申矣間ハ安心被下度矣記
者ヨリ其當時小生ノ有様ハ聞及ビナランガ身寸鉄モ
帶ビズ風浪ノ中ノ「」且勇ハ察シ被成下度矣是
非一度貴下ハ来港待入矣唯今ニテハ自由ニ貴地及
ビ「カビ」テ間ノ往復致居矣モ教多有之矣「カビ」テ
ヨリ貴地マデ乗合船ニテ二圓乃至三圓モ出セバ
便船有之矣「カ」ンボニ上陸シ居ル米軍ハ砲騎隊
ハ見受テズ貴下ヨリモ「カビ」テ政廳ニテ「サンデゴ」氏宛
ニテ御書状被下度得者無事相届キ申矣「ハ」コル
ヘハ一寸不便、有之矣
貴下ヨリ取調ニ関スル要點等ハ各抜キ送リ被

下度其何分手馴レ又取調ヘ、事故殊ノ外心痛
罷在英尤モ二夜同一ノ処ニ寝タルハ無之カ
ビテ政廳乃至「バコール」ハ種々慶フ替ヘ身ニ叶フ
大ケノ「」ハ致シ居美実ニ昨日ハ浪速艦ニテ勇氣
モ挫テ申美顧ミシバ彼レ大佐ノ識ヲ尽スノ結果ト
諦メレバ何事モ無之矣併シ如此真面目ニテハ事
実ヲ得ラルヤ否ヤ
「コンパニア」ヒリピナ「歸船長」ハ「クニバ」人ニテ一昨日「カビテ」
ニテ面会致美「スビク」ニテ日本軍艦ハ「西班牙人」ヲ使
乗セシメタルハ何故ナルヤ「ナゾ」小生ニ問ハレタリ然レ
比小生ハ何事モ知ラヌ貴下ヨリ始メテ右件美ルナ
リト答ヘタルノ「傍人」種々ノ意見ヲ吐露シ議論ヲ
為シ居及浪速艦長ノ如ク恐ル「」モ無之モノト

奉存矣各國軍艦ハ日々「カビテ」ヨリ食品取寄セ
居美其都度小舟ニテ往復致居美
過日及軍小蒸汽ニテ訪問シタル「」ハ非常ノ大失
錯ナリシ「」首領株ニテハ十分後悔致居美右ハ
単ニ無謀ノ少壮士官ノ仕事ニテ有之矣
是閑ノ節馬尼刺ノ情况ハ聞セ被下度美若シ
幸便有之矣「」左品ヲ送被下度美
「アラム」ブ「ラ」製造会社ノ煙草葉卷ノ「」

Peima Victoria
Non plus ultra

二箱
二箱

右ハ「ドン」ベ「ト」レ「ガル」タ「氏」ノ依頼ニモ座美「サン」デ「コ」氏
マデハ届ケ願度美尤モ「」序ニテ宜敷美
七月廿五日ハ雨天ニテ小生氣迷「中」只今ヨリ「カビテ」

渡り当書状ヲ托スル筈ニ有之矣在馬尼刺ノ
諸君へ宜敷ク傳へ下度矣同封ノ受取書
は序ノ節浪速艦主計長へ日届下度矣

極秘 第一種

本報 權第九一號一ニ

第四報 至急便

時澤大尉殿

サンピロニ於テ 富岡卯七郎

七月廿九日 午前及軍ハ「マクツキ」及「パサイ」ヲ引揚ゲ「サンピ
ロ」へ集中セリ交テ米軍「マクツキ」及「パサイ」ヲ領セ
リ及軍ハ明日「日曜日」サンピロニ於テ軍隊供養ヲナ
ス筈是レ迄「パサイ」ニハ「ゲビシ」ヲ少將アルテミヲリカル
テ氏 総指揮官「ブリガダ」少將「マリ」アノ「エル」氏ハ「パラ」ニヤケ
ニ止マリ千名ノ兵ヲ指揮シ居レリ「アレ」パロ大尉ハ
少將附キナリ
は兼知ノ如ク外國人墓地及ビ「バリ」ラデス「アボイ」レハ

軍ハ断念シテ退却セリ今ハ及軍ノ領スル所タ
リ「スアゴイ」ハ「サンタアナ」ニ接近シタル一村落ニ有之夫
廿六廿七廿八廿九日ハ別段変リタルコトナシ

七月三十日 午后八時「エミリオアギナルト」ハ「カビテベホ」ヘ向ヘリ
「ホルラマント」施行ノ為メナリ今日午後「マクツベキ」方面
ノ及軍ハ引揚ゲ替テ米軍四五百名具方面配置
ニ付ケリ「ヘミラルピラピラル」及「アルテミラリカルテ」ハ「バコ
ール」ヘ着セリ

七月廿日 午后十一時米軍ハ「マクツベキ」攻撃ヲ始メ午前三
時過ギ及ベリ此戦ヒ米軍大尉一名兵卒七名即
死セリ負傷二十余名翌一日「マリバイ」ノ「アシエンダ」
地内へ埋葬セリ本日米軍ノ運送船到着セリ多
分四千名内外(兵員)ナラント

八月一日 三十日夜「マクパホ」ノ役全方面ノ主将「バンタレランガル
シ」ハ右腕ヨリ背ヘト「モゼル銃丸」ヲ打抜カレタリ
生命ニ別余ナシ今猶ホ「コンセプシヨ」ノ病院ニアリ
全役砲兵中尉「ホセ」ト申スモノ一人即死セリ全中
尉ハ實ニ惜ムベキモノナリト「ゴルル」ハ「パワ」替テ主将タリ
(支那人) 今日午後「ヘミラルピラピラル」ハ任地ヘ歸リ「ヘミラ
ル」アルテミラリカルテ「ハ」多分「カビテベホ」ヘ行キタルモノナ
ラン

八月二日 午后副官連中ハ「カビテベホ」ヘ向ヘリ
三日 午前地方行政官ヲ召集シ「カビテベホ」ニ於テ「エミリ
ヨアギナルド」「ホルラマント」ヲ施行セリ会スルモノ無救
「ガシガコ」氏ハ末週初ノ獨舟「アルタ」歸ニテ出帆ノ「
トナレリ」土軍ハ一時攻撃ヲ中止休息スルナラン「サ

シビロニ於ル一下士官ノ咄ニ弾丸不足トノコナリ米
軍ハ一向動靜相分リ申サズ目下「タンボヨリ」「カビラ」
へ軍用電信布設最中ニ有之矣風説ニハ「マニラ」
ヲ攻撃スルトノ噂專ラナリ
四日「カビラ」ベホニ於ケル「ホルラメント」ハ無事結了セリ
「サンヂゴ」氏ノ依頼モアリ午前六時「バコール」発「マリバ」
イヨリ「バシク」ヲ経テ「マンタロヨシ」ヨリ夜中「バンダカン」
へ渡リ全地ニ一眠セリ
五日朝無事帰宅セリ